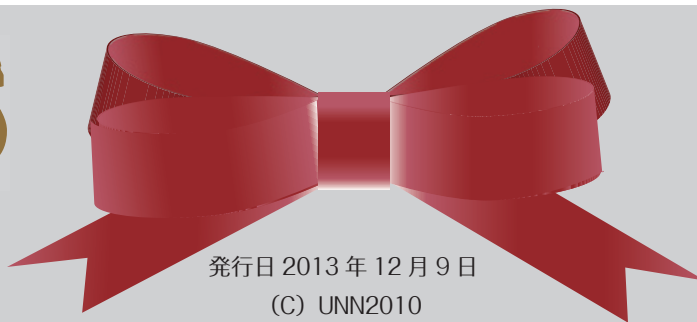


FOCUS

MEMORY
CHRISTMAS



発行日 2013年12月9日

(C) UNN2010

京都造芸大生 クリスマスで DECORATE

vol.180

11月23日、藤井大丸（京都市下京区）の地下道ショーウィンドーに8体のトナカイたちが現れた。ビーズやボタンなどで装飾され、通行人を魅了するトナカイたち。それを作ったのは京都造形芸術大学の学生プロジェクトチームだ。1体1体丁寧に作られたトナカイたちの制作までの経緯に記者が迫った。



この制作は京都造芸大が取り組む「リアル・ワーク・プロジェクト」の一環で、百貨店「藤井大丸」との提携プロジェクトとして企画、実施されている。藤井大丸が季節や時事、トレンドに応じた展示コンセプトを提示し、今年は「WILL DECORATE」というテーマに。学生たちはテーマに沿ったデザインを自ら考え創作する。参加した20人の学生はオリジナルのデザインプランを9月にプレゼン。その結果、今木ななさん（京都造芸大・1年）がデザインしたトナカイが採用され、チームリーダーとして企画を先導することになった。「デザイ

ンする際は分かりやすいモチーフにすることを心がけました。選出されたときはすごくうれしかったです」と彼女は振り返る。作業開始は10月、発砲スチロールを切り抜くことから始まった。トナカイの形に切り抜いた発砲スチロールをやすりで整え、パテと呼ばれる塗料、ペンキと順に塗っていく。こうして生み出された8体のトナカイにビーズおよそ200万個、ボタン1万6千個を1つずつ丁寧に接着し、装飾していく。今木さんは各トナカイに3人程度のチームをつけ、具体的

トナカイ運ぶ プレゼント

な装飾デザインをチームで担当させた。こうすることで、それぞれが個性に富んだトナカイとなった。また並べた時を想定し、デザインの重複や全体のバランスを考え細かい修正を繰り返した。「貼り付けているビーズや

ボタンの素材の違いで、見え方が全然違うんです」と彼女は語る。実際に展示場所に行き、地下を歩いてきて見える部分の角度や、モチーフの見える位置、目線の高さなど確認して作品作りに活かした。そうして完成し

た作品がショーウィンドーに設置され照明に当たり輝く光景は、想像以上に感動したという。今木さんは「1体1体のトナカイに個性がある。ぜひ立ち止まってじっくり見てほしい」と笑顔で話した。完成度の高さにプロジェクトの責任者である関本徹生教授も「かなりいい出来です」と目を細める。飾

られているトナカイたちは12月25日まで藤井大丸の地下道ショーウィンドーで見ることができる。手前にある商品だけでなく、細かいところまで気を配られた個性あふれるトナカイたちにも注目してみたいだろうか。（聞き手=杉本紗矢香・比嘉智也）

京都造形芸術大学
KYOTO UNIVERSITY OF ART AND DESIGN



FUJII DAIMARU

UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>
■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F
(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは
神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムズ編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです